



・発 行・  
京 都 障 害 者  
ス ポ ー ツ 振 興 会

# 会長就任の「あいさつ」

## 京都障害者スポーツ振興会 会長 水谷 裕

一昨年度、川面前会長が体調の不調で辞意を口にされましたが、良くなるまで当面の間休養していたことで、休養される当面の間、私が会長代行の任にあたり振興会活動を進めていくことを、正式に承認していただき、副会長以下スタッフ全員をサポートを得ながら、会務を進めてきました。

しかし、今年3月で役員任期が切れるというところから辞意を表されたので、常任理事会、理事会において経過を説明し、了承を得て、平成24年3月の代表者会議で提案し、川面前会長の後任としてこのたび新しく京都障害者スポーツ振興会の第四代会長に選ばれ、4月1日付で就任しました。前会長同様よろしく願います。

川面前会長は会長としての任期は短かったですが、いうまでもなく振興会の立ち上げから参加されて以来40年の長きにわたって指導的立場から多くの障害のあるスポーツマンや多くの人材を育てて来られ、数々のご功績を残してこられました。本当にご苦労様でした。

ただ辞めて終わりではなく、芝田、内山両顧問と同様に顧問として、今後も、ご協力、ご支援を得て、スタッフ全員で京都障害者スポーツ振興会の活動を守っていききたいと思っておりますので、よろしく願います。

さて、私の京都障害者スポーツ振興会活動についての思いや考え方は、平成20年4月から平成24年3月の4年間にわたり連載したスポ振ルネサンス

心でつなぐ活動を！の中ので多岐にわたり書いてきましたので、ご理解いただけれていると思っておりますので、詳細は省きますが、昨年11月29日、京都障害者スポーツ振興会は、障害のある人々や関係機関・団体の方々のご支援・ご協力のおかげをもって、昭和46年に設立して以来、満40歳を迎えることができました。京都障害者スポーツ振興会にとつて、大きな節目であり、京都における障害のある人々のスポーツ活動を支援する運動体としての位置付けを確かなものにすべくターニングポイントでもあるのです。

芝田顧問の「障害のある人々がスポーツを日常化できるよう、受け皿となる団体をつくりたい」という熱い思いからスタートした振興会は、京都府立体育館と共催で取り組んだ「心身障害者（児）スポーツのつどい」を始めとして、あらゆる障害のある人々、とりわけ、重い障害のある人々のスポーツ活動を保障するための環境の構築などの支援活動を、がむしやらに行なうて来ました。そして、今日では、年間様々な事業を関係する機関・団体の皆様のご指

導・ご支援・ご協力を頂きながら、実施できるまでになりました。

しかし、この40周年を区切りとして「発足当初、振興会が目指したものは何だったのだろうか？」ということの基本に、「現状は、どうなんだろう、これで良いのだろうか？」など、振興会活動に対する姿勢やあり方が「何かズレて来ているのではないか」「何か勘違いをしていることはないか」と、振興会活動の原点となる理念を大切に活動のあり方をゼロからの視点で検証してみなければならぬと考えます。

団体活動は、時が流れ歴史が積み重ねられるとともに、そのあり方や方向の変化を余儀なくされることがあるということも、あえて否定するものではありませんが、たとえそうであっても、活動の根底に流れる理念は、振興会設立の目的から、決して変わるものではなく、振興会スタッフ全員が再学習を行い、これからも大切に育み、さらに活動の輪を広げていきたいと思っております。

行事予定	7月	10(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園
		15(日)	第32回全京都障害者総合スポーツ大会 卓球大会	京都市障害者スポーツセンター
		22(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽
	8月	5(日)	乙訓障害者スポーツのつどい	大山崎町体育館
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010				
<a href="http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/">http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/</a> (2012年6月3日に一部更新)				
来月のつどいは8月12日(第2日曜日)				

### 「つどい」は続くよ いつまでも!

「つどい」スタッフ  
伊藤憲一

ナンバーワンにならなくてもいい!

館内に響くスマップの歌に、ある人は小走りに、またある人は飛び跳ねるようにしながら、フロアーに入っただけです。スタッフとハイタッチをする人、体育館の職員さんと挨拶を交わす人…。あの始まりの場面を見ていると、とてもほのぼのとした気持ちになるのは、私だけでしょうか?

「つどい」に関わらせてもらうようになってからまだ、一年を過ぎたくらいです。一年といても、毎回きちんと参加できているわけではないので、回数にすればほんのわずかで、す。きっかけは、障害者スポーツ指導員の初級講座を受けたことでした。

私事ではありますが、仕事の関係で「つどい」があることは知っていました。また、自分自身もこれまで、

京都で開催された全国身体障害者スポーツ大会や、東京で開催された第1回知的障害者スポーツ大会（ゆうあいピック）などに、幸いにも手話通訳やコーチという役を与えられ、障害者スポーツとの関わりを持ったこともありました。そこで繰り広げられるのは、競技スポーツとしての障がい者スポーツです。

「つどい」では、障がいの種類、軽重を超えまた、当事者のみならずご家族、ボランティア、ヘルパーさんといった関わる全てのみなさんが、同じ時間、場所を共有し、心身共にリラックスできる、いわばレクリエーションスポーツが行われていると思っています。

私は先輩スタッフと一緒に、オープンスペースを担当させてもらうことが多いです。

フライイングディスクでは、投げたディスクがアキュラシーゴールを通過すると、平板な表情の参加者がほんのりと微笑みになります。通らなかつた時には、逆に残念そうな表情が見て取れます。後半に実

施している車いすハンドボールの時間になると、どこからともなく常連の参加者が現れます。そしてここでは、参加者同士で相手のことを思い合い、ゆっくりとしたパス、膝の上にボールを置くようなパスなど相手に合わせた優しい時間の多く見られます。もちろん、参加者によっては、激しくぶつかり合ったり、強烈なシュートを放つ場面も見られます。何より競技中に笑い声や笑顔が見られることがとても素敵ですし、その場にいる私も楽しい時間を過ごしています。

私は向日市に住んでいます。向日市に障がいのあつた方々にこの「つどい」を紹介することがあります。これまで何人かの方が参加してくださりました。

しかし、継続して参加されることがなく、残念に思っています。おそらく、移動の問題や引率の人の都合などが継続しにくい原因のひとつになっているのではないかと想像します。その意味で、何回か前の水谷会長がこの紙面で提案されていた、各地域での振興会活動や「つどい」の開催もニーズがあるので、な

いかと思います。向日市を含む乙訓地域では、年4回の「つどい」が開催されています。この回数が、年6回、年10回と少しずつでも増やせるような条件が整備されると、とも思いますが（地元「つどい」には、日が行けてませんが(>\_<)）。

四百数十回の歴史の中には、立ち上げの時から継続して続けてこられた体育館職員の方々とスタッフ、そして参加されている障がい者やご家族、関係者の思いが詰まっています。その歴史のほんの数回ですが、そこに関わっていることを嬉しく思っています。今後とも都合をつけて、楽しく関わっていきたくと思っていますのでよろしくお願ひします。



### 全京都障害者 総合スポーツ大会 卓球バレー大会結果

一般の部	京田辺キララ
優勝	京田辺キララ
準優勝	やまぶき
第3位	京田辺うらら
施設の部	
優勝	西陣工房A
準優勝	山科ロピンス
第3位	洛南A
学校の部	
優勝	西総合B
準優勝	西総合C
第3位	東ドラゴンズ

お急ぎ下さい

全京都総合スポーツ大会

参加申込み締切迫る

- 水泳大会 7月14日(土)締切
- 陸上大会 7月28日(土)締切
- アーチエリート大会 8月23日(木)締切